



南牧小・学校評価だより

令和4年1月12日 No. 3
南牧村立南牧小学校

令和3年度第2回の学校評価アンケートの実施に際しまして、ご協力ありがとうございました。アンケートの集計ができましたのでお知らせいたします。
学校では、成果と課題を明確にし、課題に対しては改善策を考え取り組んでまいります。また、皆様からいただきました貴重なご意見を3学期及び次年度の学校教育に活かしてまいります。今後ご支援、ご協力をお願いいたします。

令和3年度 第2回学校評価一覧表 教育目標の達成状況

評価の観点	評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】	評価者		
		職員	家庭	児童
やさしく	返事や挨拶がしっかりできる	100%	94%	100%
	人の気持ちを感じて行動できる	100%	94%	94%
	感謝の心で人や自然に接することができる	100%	94%	100%

評価の観点	評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】	評価者		
		職員	家庭	児童
かしく	夢の実現に向けて、意欲的に学習する	100%	69%	94%
	課題可決に向けて、自ら考え、判断し、表現する	100%	81%	94%
	人や自然に学び、創意・工夫する	100%	94%	94%

評価の観点	評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】	評価者		
		職員	家庭	児童
たくましく	運動に親しみ、健(すこ)やかな身体と康(やす)らかな心を鍛える	100%	75%	87%
	失敗や困難に負けず、強い心で何事にも取り組む	100%	88%	94%
	危険を予測し、主体的に判断し、命を守る行動がとれる	100%	94%	94%

本年度の努力点についての評価 No.1

評価の観点	評価項目 各項目の評価 【(A+B)が90%であること】	2学期の方策			職員	家庭	評価	成果と課題	3学期の方策
		職員	家庭	児童					
確かな学力の向上	指導体制や指導方法の工夫・改善を図り、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。	・昨年度のCRTの過去問題やドリル学習を活用し、基礎基本問題に取り組ませる。 ・校内研修等で「南牧小スタンダード」を継続的に振り返り、改善に努める。	100%	100%	A	・CRTの過去問題を各担任に配付し、対策を進めることができた。 ・全校漢字テスト、算サuntime等を使い、漢字、ドリル学習を進めることができた。 ・校内研修で「南牧小スタンダード」を取り上げ、各担任の課題を明確にし、その後振り返ることで改善に努めることができた。	・CRTの過去問題を繰り返し取り組む。CRTの結果を担当が分析し、活用していく。 ・「南牧小スタンダード」リストを作成し、次年度に引き継いでいく。		
	体験的な学習や問題解決的な学習を効果的に取り入れ、思考力・判断力・表現力等の知識・技能を活用する力の向上に努める。	・引き続き、年間指導計画、単元計画を活用し、計画的な実施に努める。 ・校内研修を中心に、教育CIOとの連携を図り、課題の改善に努める。	100%	100%	A	・年間指導計画、単元計画の計画的な実施がおおむねできたが、感染症対策のため校外での体験的な学習は、内容が削減、もしくは実施することができなかった。 ・校内研修を中心に、教育CIOとの連携を図り、児童が主体的に考え表現できるような授業の改善に努めた。	・年間指導計画、単元計画を活用し、計画的な実施に努め、体験的な学習は、可能な限り実施していく。 ・校内研修を中心に、教育CIOと連携を図り、本年度の成果と課題(教師間のICT活用スキルの差等)を明確にし、次年度に引き継いでいく。		
	自ら考え学び合う児童主体の授業実践に努め、学びに向かう力・人間性の涵養に努める。	・児童の実態把握に努め、身近なところから、必要感、必然性のある課題の設定に努める。 ・児童の思考の時間の確保をし、個に合った学習支援の充実を図る。	100%	100%	A	・児童の実態把握に努め、必要感、必然性のある課題の設定に努めた。 ・個に合った学習支援の充実を図ることができたが、思考の時間の確保については、課題が残った。	・引き続き、児童の実態把握に努め、必要感、必然性のある課題の設定に努めていく。 ・児童同士(もしくは、教師が児童役となり)の対話に努め、児童の発話量を多くすることで、児童の思考の時間の確保に努めていく。		
	「みんなのやくそく」の実践により、学習習慣・学習規律の定着を図る。	・学期初めに、改めて指導者が「みんなのやくそく」「話し方」「聞き方」を振り返る機会も設け、課題となるところ改善していく。継続的に児童と振り返る。	100%	100%	A	・「みんなのやくそく」「話し方」「聞き方」の掲示物を使用し、指導の継続ができた。 ・校内研修で「ハンドサイン」「つなぎ言葉」の活用など、課題を取り上げることで意識することができた。	・学期の始めには必ず「みんなのやくそく」「話し方」「聞き方」などの掲示物を内容を確認していく。 ・「ハンドサイン」や「つなぎ言葉」は学級により活用のばらつきがあるため、全学級で取り組んでいく。		
	学力向上計画の組織的な取組に努める。	・1学期の児童・教師アンケートをもとに、2学期の取組の共通理解を図り、授業改善を行い、学力向上に努める。 ・校内研修で共有した課題を改善していく。	100%	100%	A	・「学力向上計画」に沿って、授業実践を行うことができた。 ・ブロック代表授業、一人1授業の際には、電子黒板を活用した授業検討会・授業研究会等を行い、充実した研修を行うことができた。	・2学期のアンケートをもとに、3学期の取組の共通理解を図っていく。 ・引き続き授業改善を行い、学力向上に努めていく。 ・校内研修での成果と課題をもとに、次年度に繋がるような授業改善に努めていく。		
	「家庭学習の手引き」を活用して家庭と連携を図り、家庭学習の習慣化に努める。	・タブレット自主勉強の取組内容を学内で共有し、更なる内容の充実を図る。 ・ぐるぐる自主勉ノートの指導を中心に、家庭学習への意識付け、家庭への周知を図る。	100%	100%	A	・家庭学習の手引きを活用し家庭と連携しながら自主学習の充実を図った。 ・ぐるぐる自主勉ノートを活用し、家庭学習への意欲付け、家庭への周知ができた。	・タブレット自主学習の取組内容を学内で共有していく。 ・ぐるぐる自主勉ノートの取組を継続していく。		
豊かな人間性の育成	ICTを日常的に活用した教育活動の実践に努める。	・校内研修等で、新たなICT機器も含め、効果的だと思う取組を指導者の中で共有し授業で実践する。ICT系統表を作成し、系統的な指導に生かす。	100%	100%	A	・ICTの効果的な取り組みを指導者の中で共有し、授業実践を行うことができた。	・校内研修での成果と課題をもとに、次年度に繋がるような授業改善に努めていく。 ・効果的なタブレットの活用方法や活動事例を次年度に繋がるように、共有していく。 ・ICT系統表の見直しを行っていく。		
	人権教育及び道徳教育を核として心の教育の充実に努める。	・児童主体の活動になるよう内容を工夫するとともに児童の主体性を伸ばしていけるよう計画を立てる。	100%	94%	A	・児童が主体的に活動する姿が多く見られた。上級生の姿を手本にし、下級生も積極的に活動に取り組むという意識を高めることができた。	・取組を継続していく。		
	積極的な生徒指導と児童の心に寄り添った教育相談に努める。	・児童が自己有用感を得られ、次の活動への意欲を高められるように、活動を計画したり、児童の支援を充実させたりする。	100%	100%	A	・それぞれの活動の事前事後指導を充実させることで、児童自身が頑張りを認め次の活動への意欲を持つことができた。	・取組を継続していく。		
	よりよい人間関係づくりを基盤とした学級経営に努める。	・縦割り活動や委員会などを通して、児童同士の関わりを増やし、さらにコミュニケーション能力を高められるようにする。	100%	94%	A	・縦割り活動等を進めることで、異学年交流の充実が図れた。児童同士の対話をより増やしコミュニケーション能力の充実を図っていく。	・取組を継続していく。		
	自己目標をもち、自己理解・自己実現を図るキャリア教育の充実に努める。	・キャリアパスポートを活用し、教育活動全体を通したキャリア教育を推進していく。	100%	100%	A	・キャリアパスポートを活用し、行事の目標や振り返りを行い、児童が見通しをもって取り組むことができた。	・取組を継続していく。		
	特別支援教育の視点に立ち、一人一人に応じた指導・支援の充実に努める。	・個別の支援計画を活用し、全職員で個に応じた対応をしていく。 ・専門相談員との連携も継続して行っていく。	100%	100%	A	・個別の支援計画を基に全職員で指導・支援することができた。 ・専門相談員とも連携し、児童に寄り添った教育ができた。	・取組を継続していく。		
小さな変化を見逃さず、不応や問題行動の早期発見・早期対応に努める。	・生徒指導報告をもとに職員全体で共有し、早期対応を図っていく。	91%	87%	B	・生徒指導報告に記入し、周知することで全職員が共通理解し、対応に励むことができた。	・取組を継続していく。			

本年度の努力点についての評価 No.2

評価の観点	評価項目 各項目の評価 【(A+B)が90%であること】	2学期の方策	職員	家庭	評価	成果と課題	3学期の方策
健やか かな づくり	体力向上プランの組織的な取組に努める。	・新体力テストの結果から、体育部で話し合い、今後の課題を職員間で共通理解を図り、引き続き体力向上を目的にした活動を取り入れる。	100%		A	・新体力テストの結果が1学期より2学期実施の記録の方が良くなった。職員間で100%という評価が得られた。	・新体力テストの結果を基に、授業の取組や活用資料などを体育部で話し合い、今後の課題を職員間で共通理解を図り、引き続き体力向上を目的にした活動を取り入れていく。
	食育や健康教育の充実・家庭との連携により、基本的な生活習慣の定着に努める。	・基本的な生活習慣の定着に向けて、夏休み中の健康チャレンジの結果を生かし、学校保健委員会でも議題に挙げるなど、取組を積極的に行っていく。	100%	100%	A	・学校保健委員会の議題に挙げることで、児童が意識して、行動できるようになった。家庭の協力もあり、基本的な生活習慣の定着について100%という評価が得られた。	・冬休み行った健康チャレンジの結果を用いて、少人数校の特性をいかし、一人一人が自分の生活を振り返られるよう、個に応じた取組をしていく。
	安全教育、防災教育の充実により、危険予知能力、危険回避能力の育成に努める。	・予告なしの避難訓練も計画し、より安全意識を高める。 ・毎月の代表委員会を利用して、校内の過ごし方について全校で共通する。		100%	94%	A	・予告なしの避難訓練では、臨機応変な行動を児童が取ることができた。 ・危険な過ごし方について、代表委員会を通して、全校に周知することができた。
組織的 で活 力あ る学 校づ くり	学校教育目標実現のために、本校の実態に応じた特色ある教育課程のマネジメントに努める。	・学校での取組や児童の様子を家庭・地域に伝えられるよう、定期的なWeb更新を行っていく。	100%		A	・学校評価の分析を行い、担当ごとに改善策を練り、実行することができた。また、本校の取組の様子をWebで発信し、地域にも伝えることができた。	・課題に対する方策を示し、学校での取組や児童の様子をWebを通して発信し、本校の特色ある取組を家庭・地域に伝えていく。
	互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努める。	・職員の専門分野を生かし、計画的なOJTの充実を図る。 ・指導力向上に向け、担任間での授業参観を積極的に行っていく。	100%		A	・職員の特性を生かし、学校行事や校内研修等で、職員同士の交流があり、児童への関わり方を共有することができた。 ・校内研修の一人1授業を通して、相互の授業参観を行うことができた。	・さらに刺激し、高め合える職員集団を目指し、日頃から職員同士の交流を深めていく。
	人事評価制度を適切に活用し、学校経営への参画意識を高めるよう努める。	・経営方針とリンクした目標達成に向けた実践に取り組む。 ・一人1授業や参観授業による目標達成状況について、管理職による確認を行う。	100%		A	・校内研修に関わる一人1授業の実践を通して、教員の授業力向上が図れた。 ・授業後に管理職から面談指導を受けることを通して、取組の成果や課題を確認できた。	・資質向上研修と関連させ、教職員相互の情報交換を充実させていく。 ・教員同士の授業参観を恒常化し、授業力のさらなる向上を図っていく。
	服務規律の確保を徹底する。	・非違行為の根絶に向けて、計画的に服務規律に関わる研修を行っていく。	100%		A	・服務規律の確保に向けて、会議の際に提案者を輪番制にし、当事者意識をもつことができた。	・取組を継続していく。
	校内研修を核として職員研修の充実を図り、教職員の指導力向上に努める。	・授業研究会で出た意見や改善点を次に生かせるよう、ポイントをまとめ共有化を図る。	100%		A	・研究授業前の指導案検討や模擬授業を通して、授業や参観時のポイントを共有でき、実りある研修を行うことができた。	・校内研修での取組を積極的に取り入れた授業を行っていく。
	校務の精選と効率化による業務改善の推進と勤務時間の適正な管理に努める。	・勤務時間内での校務に充てる時間を確保するため、担当業務のローテーション化を図る。 ・仕事に軽重をつけたより効率的な働き方を推進していく。	100%		A	・給食、掃除担当をローテーション化したことで業務の時間を確保でき、効率的な働き方を推進することができた。	・取組を継続していく。
安全で 安心な 学校づ くり	学校安全マニュアルの共通理解により、危機管理の徹底に努める。	・2学期のはじめにもマニュアルを再度確認し、共通理解を図る。 ・予告なしの避難訓練を行い、職員の危機管理意識をより高めるようにする。	100%		A	・マニュアルを確認することで、再度共通理解を図ることができた。 ・予告なしの避難訓練では、児童や職員の危機管理意識を高めることができた。	・学校安全マニュアルを確認し、共通理解をさらに図っていく。
	学校施設整備や通学路の安全点検を徹底し、問題点への迅速な対応に努める。	・修繕箇所の優先順位を協議し、速やかに対応できるよう声掛けを行っていく。 ・児童から得た通学路の危険箇所があれば、全職員で共有できるようにする。	100%	100%	A	・毎月計画的に安全点検をすることができ、修繕箇所の有無を確認することができた。	・取組を継続していく。
	適切な予算執行により、教育環境の整備・充実を努める。	・今年度の予算残高を見通しながら、計画的に有効かつ効率的な教材調達を行い、教育環境の整備・充実引き続き取り組んでいく。	100%		A	・予算執行を教育効果を考慮しながら、適正に行うことができた。 ・計画的に補助簿を確認し迅速に教材調達を行い、村教委との連携が図れた。	・予算残額を確認し、来年度予算を見通しながら、計画的に有効かつ効率的な教材調達を行い、教育環境の整備・充実の取り組みを継続していく。
地域と とも にある 信頼 され る学 校づ くり	めざす子ども像を学校、家庭、地域と共有し、連携・協働した教育活動を推進する。	・学校運営協議会を軸として、三者が連携した教育活動を計画していく。	100%	100%	A	・地域人材の協力のもと、サツマイモの栽培や校庭への球根植えなどを行うことができた。	・次年度を見据え、年間を見通して三者が連携した計画を立案していく。
	学校評価・学校運営協議会を活用し、学校課題を把握し改善を図る。	・第1回学校評価の成果と課題を生かし、学校課題の改善を図っていく。 ・2学期の方策の着実な実施に努める。	100%		A	・2回の学校評価を通して、学校課題を明確にすることができた。学校、家庭、児童が抱えている課題を早急に改善していくための手立てを講じていく必要がある。	・明確となった課題を全職員で共有し、改善策を考え、早急に実行していく。
	学校Webページや各種通信等により、積極的な情報発信に努める。	・学年における更新頻度のバランス化を図っていく。	100%	100%	A	・各学年とも、定期的なWebページの更新や学年通信の発行を行い、スピーディーな情報発信に努めることができた。	・学校の取組の様子が保護者に伝わるよう、定期的なWebページの更新、学年通信の発行に努めていく。
	地域人材や施設・自然の活用を通して、地域のよさを生かした教育を推進する。	・学校課題や、児童の教育活動の充実に向けて、学校運営協議会との連携を推進し、地域人材の発掘を進める。	100%	100%	A	・ふるさと朝礼や運動会の鼓笛指導等に地域の人材を活用し、学習を進めることができた。また、サツマイモ栽培では学校運営協議会との連携ができた。	・学校運営協議会との連携をさらに推進し、地域人材の発掘を進めていく。
	保育園や中学校との連携を推進し、幼児教育及び義務教育9年間の系統性ある教育活動に努める。	・小中学校間の授業参観を実施し、系統だった指導に生かす。 ・各種行事を通して、保小の連携を密にしていく。	100%		A	・異校種間の授業参観や、兼務教員を通しての情報交換を行うことができた。 ・幼児の運動会への参加、ミュージカルの合同鑑賞などを通して、保育園との連携を図ることができた。	・中学校との授業参観を継続的に実施していく。 ・小学校入学に向けて、一日入学を通して保育園と情報共有を図っていく。